

「里山と水鳥」分科会

「印旛沼周辺における水循環健全化と
水鳥の越冬拠点再生」



九十九里／夏目の堰に始めて400羽も渡来越冬したコハクチョウ

開催日時：2006年4月15日(土) 午後1時30分より

開催場所：千葉県立中央博物館 講堂

入場無料(資料有償)

利根川の下流域、3大湖沼のひとつ「印旛沼」の周辺とは、かつてどのような場所だったのか。明治以降、人の営みにより、雁類・コウノトリ・タンチョウヅル・トキなど、かつて生息していた水辺の渡り鳥は今では絶滅状態です。その再生を願う上で、生物指標としての水辺の鳥、特に大型の水鳥が水循環健全化を計るにおいて最も重要な役割を担うことが最近わかってきました。

かつては無数にいた潜水性のキンクロハジロやホシハジロ等の生息が果たしていた環境保全上の役割などを見直します。また、「水環境改善事業」の先進的な事例となっている、島根県の宍道湖での取り組みのご報告を頂きます。宍道湖と印旛沼を、水循環健全化と水鳥の越冬拠点の復元について新たな角度から比較検証し、ともに地域再生への協働という観点から考える場をしたいと思います(荒尾 稔)。

基調講演「宍道湖・中海における水環境改善事業」 湯浅丈司 (国土交通省出雲河川事務所)

報告1 「利根川下流域の冬鳥の越冬拠点の再生」 荒尾 稔 (日本雁を保護する会)

報告2 「印旛沼の鳥類相と水辺環境」 箕輪義隆・浅川裕之・桑原和之 (千葉県立中央博物館)

報告3 「印旛沼の水循環健全化と印旛沼自然再生事業」 吉田正彦 (千葉県河川計画課)

パネル討論 —雁類・コウノトリ・タンチョウヅル・トキなどの再来を目指して!—

パネラー 桑原和之、吉田正彦、湯浅丈司、荒尾 稔

コーディネーター 中村俊彦(千葉県立中央博物館)

問い合わせ先：分科会長 荒尾 稔 (日本雁を保護する会、里山シンポジウム実行委員会事務局長)

電話 03-3824-6071